

中小企業の 5 人手不足への備え方



クニエ
ロジステイクスグループ
大室 翔史
マネージャー

になる。社外の関係者とい
うのは、企業や事業体によ
って変わってくる。今回は
筆者が過去に3PL企業で
勤務していたことを踏ま
え、3PL企業と荷主の間
での省人・自動化に向けた
機器の導入プロジェクトを
想定して説明していきた
い。3PL以外の企業にと
っても参考になるはずだ。

社外関係者の メリット考慮

最終回では、省人・自動
化の実現まで中小企業が考
えるべきことを解説してい
く。社内で達成すべき、統
一した重要目標達成指標を
掲げた後は、いよいよ社外
の関係者を巻き込んで省人
・自動化に向けて動く段階

実際にプロジェクトを進
めていく上で、機器導入に
向けて大きな方向性を3PL
と荷主で擦り合わせる必要
がある。課題になるのが、
機器導入により求める
メリットの不一致。例え

省人・自動化へ最終的に考えるべきこと

重要視するメリットの違い

荷主	3PL企業
品質の向上	コスト削減 (生産性向上)
物流費削減 (生産性向上)	
サービスの向上	

期間が終了
したい具体的な目標を掲げる
し、別の荷主
の業務で利用
しようとして
も、利用でき
ない可能性が
高い。特に3
PL側でコス
トを負担する
場合は、改善
効果が期待で
きる作業工程
に絞った機器
を導入し部分
運用方法を設計する際
は、理想を全て実現しよう
とすると、議論が進まず結
論が出ないことがある。そ
んな時は、マテハンベンダ
ーや現場担当者、機器で
実行可能な作業範囲の認識
合わせを適切に行い、機器
で作業すること、それを
サポートする人作業の線
引きを明確化する。全作業
（連載おわり）

省人・自動化機器は人
を機器で行うのが理想だ
が、まずは目標の達成に必
要な範囲で機器の運用方法
の設計、補完が必要な部分
を人手でサポートする形式
を取るものがポイントだ。

新たな経営資
源に位置付け

省人・自動化は人
ITに次ぐ第三の経営資源
と捉えられてきている。企
業では省人・自動化に向け

値サービスの追加、リード
タイムの短縮など、3PL
の現場に負荷がかかるよう
な効果を目指している場合
は、導入に向けた方針が定
まらず互いに交渉は難しく
なる。まずは両社でメリッ
トを得られるように協議す
ることが最善だ。

3PLは荷主契約の切り
替へリスクも考慮しなくて
はならない。機器は荷主の
貨物特性に合わせた専用設
計のものを大規模に導入す
るほど高い省人・自動化の
効果が期待できる。一方、
汎用性は低く荷主との契約

機器の選定や 運用は現場で

方針の擦り合わせが済め
ば、機器導入に向けて社内
で計画の具体的な進め方を
検討する。検討方法は主
に、経営課題達成を優先し
て検討する「トップダウン
」と、現場からの要件を吸い
上げて検討する「ボトムア
ップ」だ。筆者は、達成し

おおむろ・しょうじ2010年ナショナル大
経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉
庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルテ
ィングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現
職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティ
ングを手掛ける。